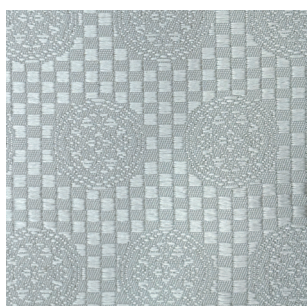
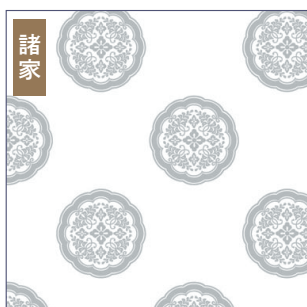
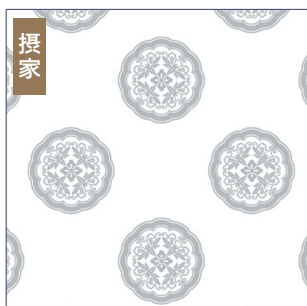


### 第3回

## 窠霰 (かにあられ)

窠霰文様(かにあられもんよう)は、極めて細かな点を規則正しく配列した霰文様の一種です。「窠」とは小さな粒や巢を意味し、その名の通り、粒を整然と並べることで全体に莊重な印象を与えるのが特徴です。単なる「あられ散らし」と異なり、秩序だった構成によって、より格式の高い文様として用いられてきました。

この窠霰文様は、束帯をはじめとする装束に用いられ、とくに天皇が即位儀礼などで着用する「黄櫨染御袍」の「表袴(白窠に霰)」にも織り込ま



※最上段「窠に霰」以下「窠」のみ  
※裂地画像提供: 株式会社誉勤商店

その柄の意味、知っていますか?

# 文様を学ぶ

装束に欠かせない文様の知識。有職故実から生まれた有職文様の数は数え切れない。文様の魅力を深掘りする連載。案内人がお答えします。



れています。窠霰は装束文様の中でも特に高い格式を持ち合わせています。

霰は古来より清浄や厄除けの意味を担い、また粒が連続することで豊かさや繁栄を暗示するとされてきました。細やかな点の連続から成る窠霰は、簡素でありながら端正な美しさを示し、日本の装束文化における文様の奥深さを象徴しているといえるでしょう。そして、この文様は宮廷装束だけでなく、雛人形の衣裳にも好んで用いられてきました。雛人形に窠霰が施されることで、優雅さと格式が加わり、家庭に飾られる人形にも宮廷文化の気品が息づいているのです。



### 解説

※表袴に文様を織り出すことが許されるのは公卿および禁色を聴許された者に限られていた。若年者や晴の儀式においては「窠に霰」を用いた。なお窠文は家ごとに異なり、天皇は「蝶」、摂家は「龍胆」、藤原家は「藤」を加えた窠文を用いた。「窠(クウワ)」とは地蜂の巢を意味する語だが、その由来は定かではない。

### 参考文献

八條忠基著『有職文様図鑑』(2020年、株式会社平凡社)

### 監修者

文様の案内人 松井幸生さん

1962年京都府生まれ。株式会社誉勤商店社長で金襴織物・裂地の製造卸商を営む。誉田屋勘兵衛から数えて13代目。「にんぎょう日本」では連載「教えて先生! 日本人形の衣裳にとことん迫る」の監修者として活躍。京人形商工業協同組合理事。平成12年伝統的工芸品産業審議会臨時委員任命。翌年、伝統的工芸品産業の奨励賞を受賞した。